

勿凝学問 244

この国をダメにする政策を官僚が提言すれば、世の中きつとうまくいくという話

2009年8月13日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

夏、暑がりや寒がりやの僕が行きたくない場所は霞ヶ関——あそこは、とにかく暑い。なにも官僚が熱く仕事をしているから暑いのではなく、エアコンの設定温度が28度に設定されているから暑いのである。僕が日頃過ごしている温度よりは、数度高い。

まあ、たしかに「事務所衛生基準規則 第二章 事務室の環境管理」に「事業者は、中央管理方式の空気調和設備を設けている場合は、**室の気温が十七度以上二十八度以下**…になるように努めなければならない」とある。だけど、[あるアンケート](#)によれば、設定温度を28℃位に設定している事務所は約7%にとどまり、25～26℃位に設定している事務所が最も多いらしい。でも、霞ヶ関の住人が25～26℃に設定していたら、いつなんどきに、どこかで叩かれるかもしれないと思わせる空気が充満しているのが今の日本なのだと思う——しかし、僕が霞ヶ関に行けば、あの暑さでは確実に仕事効率が落ちる。

ところで、この前の日曜日9日の朝、新報道2001で年金のことが取り扱われており、八代尚宏先生に自民党と民主党の年金案について聞いていた。

八代先生の弁

- ✓ 自民党案：自民党のマニフェストは厚生労働省べったりですから、ほとんどたいしたことは書いてない
- ✓ 民主党案：サラリーマンには企業が半分保険料を負担してくれるわけですね。自営業の人は雇い主はいませんから、機械的にやるとすると保険料が大幅に上がるわけです

うんっ？ ここで、「自民党のマニフェストは厚生労働省べったりですから、ほとんどたいしたことは書いてない」……朝のテレビで自然に流れたこの言葉、この言葉にはいくつもの不自然さが含まれているのだが、そうした不自然さを誰にも気付かせない空気、先ほどもつかった同じ「空気」が、今回の総選挙を民主党勝利で終わらせた、おっとまだ終わってなかったけど、民主党の圧勝で終わったも同然という雰囲気を作っている大きな要因なんだろうと、僕は診ている。彼らの殺し文句は、役人任せ……。みんなこの言葉にコロリとってしまう（笑）。本当は役人任せでないことも彼らは役人任せだと言うし、仮に役人任せであったとしても、そのどこかおかしいのかの詳細など誰も問わない。それにだいたい、役人に任せていたのであれば、日本の社会保障や財政は、こんなにボロボロにな

っていなかったんだけどね・・・とも言いたくなる。

どうも彼ら民主党の財源論ってのは、「役人任せだからムダがある」と言っているだけなんだよね。どこにどのようにムダが隠れているのか、彼らは一度も触れたことがない。財源論や年金論の細部についてなんか準備しなければやばいんじゃないかという民主党の数ヶ月前の焦りは、都議選での圧勝で吹っ飛んでしまい、総選挙まで、このまま楽勝でいけるさというところに落ち着いた模様。財源論も年金論も、役人任せという言葉を知ると、みんな催眠術にかかったようになって、なるほどそれは悪だと思ふ空気が、この国にはあるようなのである。不思議な国風である。この官僚叩きの源流は、小泉内閣にあったというのが僕の見方なんだけど、その流れを民主党が見事に引き継いでるな。

ちなみに、僕が[産経新聞のインタビュー](#)を受けたとき、「日本は、はなっから低負担で小さすぎる政府であるという根拠は、OECDが国際比較が可能なように作ったデータに基づいて言っているのであって、なにも日本の役人が自分の都合の良いように作ったデータに基づいて言っているのではないことも書いといてね」と言ったんだけど、文字数が多いとって断られた（涙）。

ということで、2年以上前の2007年の2月に、官僚、役人がやること、イコール、悪という空気がある日本に対して、僕はすばらしい政策提言をしているので、それを紹介して、本稿を終えておこうと思う。

勿凝学問 67 [映画「サンキュー・スモーキング」のすゝめ](#)
[——天高く空に舞い日本中に知れ渡れパート厚年適用制度](#)
『医療政策は選挙で変える【増補版】』208頁

官僚のやることはいつも悪く、それを批判することがみずからの任務と信じ切っており、しかも官僚よりも国民に対する影響力が絶大なのが日本のメディアであるように見える。ならば、官僚は、自分たちが正しいと思うこととまったく反対の、間違った・この国をダメにする政策を展開するゾという情報をメディアに流し続ければ、この国はよほど良い国になるのではないかと、内心想っていたりもする——はい、冗談ではない余談でした（笑）。

みんなが絶対悪とみなしている天下りも、慎重に取り扱っていかなければ、彼らは現役時に自分の地位を利用して次の職探しをしはじめるとするリスクがあると思うんだけどねえ——それが人間ってもんじゃないかい。下記、勿凝学問 72 に書いている「回転ドア」も避けたいところだし、官僚の志気と品質をキープしておきたいというのものもある。

ということで、官僚を叩いておけば自分を正当化できると思っているポピュリスト諸君、「なんかそれ、おかしいんじゃないかい」という度を越えた官僚叩き批判の文章を、いくつかまとめておきます。

- ✓ 勿凝学問 43 [首相の失言は優しく忘れてあげましょうよ、それが大人というものでしょう——厚生・共済年金一元化と追加費用](#)（2006年4月27日脱稿）
- ✓ 勿凝学問 53 [国家公務員と新聞記者の仕事、どちらの方が高い報酬で報われるべき](#)

- [なんだろう？—人事院「民間企業の退職給付等の調査結果」はおもしろい](#) (2006年11月19日脱稿)
- ✓ 勿凝学問 72 [「天下り」のほかに「回転ドア」という言葉も知っておこうか—学者は政治家よりはましな生き物なのかもしれない](#) (2007年3月18日脱稿)
 - ✓ 勿凝学問 73 [華麗なる一族によるこの国の改革—インセンティブスキームとしての社会構造の破壊](#) (2007年3月24日脱稿)
 - ✓ 勿凝学問 178 [度を越えた官僚叩きという小泉路線の一番の後継者は小沢民主党だろう—小泉氏引退表明の日](#) (2008年9月26日脱稿)
 - ✓ 勿凝学問 191 [首相の3年後の消費税増税発言を野党が批判すればするほど面白くなる—将来の負担増路線という陣地を先に与党にとられた野党の運命](#) ((2008年11月1日)